

発行者
 富山・ミラノデザイン交流倶楽部
 高岡市オフィスパーク 5
 社団法人富山県デザイン協会内
 TEL.0766-63-7140

執筆 池田美雪 * ミラノ在住

”iSalone” ミラノサローネ

2010年4月14日より4月19日までの6日間、COSMIT主催によりミラノ国際展示会場およびミラノ市街において”iSalone”が開催された。今年は、国際展示会場内で第49回Salone Internazionale del Mobileとその併設として、第24回Salone Internazionale del Complemento d'Arredo(インテリアアクセサリ製品展示会)、隔年に開催されるEurocucina(第18回キッチン関連製品展示会)、FTK-第4回テクノロジー・フォー・ザ・キッチンとSalone Internazionale del Bagno(第3回バス、サニタリー関連製品展示会)、そして35歳以下のデザイナーを対象とした第13回Salone Satellite(サテリテ)へと計2542社が出展した。来場者数は昨年比7%増の計32万9563人、その内56%が国外からの業界関係者であり、この展示会の国際性の高さを表している。

ミラノ市街を会場とするフォーリサローネでは、開催日前日の4月13日より記者会見、前夜祭が各会場で行なわれ幸先の良いスタートを切り、毎年多くの展示が集中するトルトーナ地区には55カ国から約20万人の来場者が訪れ、昨年比9%増を記録した。

また、今年から開催期間中に世界各地からリアルタイムでミラノサローネを体感できるシステムが設置された。アプリケーションプラットフォームmobic3をベースに、無数に発信される展示会やイベント関連情報、交通機関・道路・駐車場情報、また企業とクライアントのコミュニケーション、ソーシャル・ネットワークからの情報発信などへ、機種に関わらずどの携帯電話からでもアクセスが可能である。この情報サポートシステムにより、6日間という非常に短いイベントを、時間の無駄なく効率的に多くの人たちと分かち合う事ができることとなった。

iSalone2010のデザイン傾向

サローネ出展作品からみた今年のデザインの傾向は、主に3つに分類される。

1つ目は、快適さと精神性。

ここ数年続いた、シンプルでミニマル、クールなデザインはいわば無表情として見なされ、暖かさや触感を重視した素材を用いたファニチャー、奇をてらったルックスよりも快適で使い心地の良いデザイン、また、家庭のある家を想定したインテリアが提案された。そして何よりも、見せるデザインから、心で感じるデザインへと傾向が移行してきている。例えば、Natuzzi社の新作Cambréは、柔らかな曲線から構成され、カナパ生地カバーリングされたソファ。また、Edra社は、バルバリ人へのオマージュとしてラフィア繊維の束で覆われたアート感覚の溢れる収納家具Cabanaを発表。Driade社は、Fabio Novembreデザインによる神話をテーマにした独り掛けソファNemoを発表するなど、大手家具会社の新作に



例年になく今年のサローネは連日、晴天に恵まれた。



トルトーナ地区で行なわれるイベントコンセプトが発表された合同記者会見。



今年新しく誕生した、ランブラーテ地区内に設置されたサインシステム。



ノスタルジックなプリントを施したMoooi社のスツール。



Do it yourselfをテーマに20名のデザイナーが組み立て簡単家具を展示したRecession Design

は、快適さ、精神性、歴史回顧などのテーマが盛り込まれた。

2つ目は、若手デザイナー達のグローバル化とデザインコンセプトの多様化。毎年、世界各国のデザイン科の学生が学校単位で、あるいは同国のデザイナーたちが国のアイデンティティの提示を目的にミラノサローネへ出展するが、そういった従来の枠と国境を越え、フィーリングの合う若手デザイナー達が共通のコンセプトを軸にパワーを結集した、豊かで多様性のある展示が多く見られた。自分たちの作品を多くの人たちに見てもらいたいが、参加するには多大な資金が必要となり、若手には非常に困難であるといった実情から生まれたオーガナイズといえる。各々が展示できる作品数は限られているが、企業とのコンタクトを探したり、来場者からのリアクションを受けるには充分であるといえる。

トルトーナ地区で行なわれた「Hidden Heroes」には、イタリア、ブラジル、チリ、スペイン、フランスなどからデザイナーが集まり、多種多様なデザインを展示し、マーケット的な雰囲気醸成を齎し出していた。

今年、新たに生まれたランブラーテ地区(ミラノ市内北東にある元工業地域)では、インテルニ誌主催のフォオリサローネとは一線を画して、独自のオーガナイズが行なわれ大きな話題を呼んだ。初年度といえど、地域内には展示スペースが33カ所設けられ、Royal College of Art、Studio Maarten Baasなど名のある展示者が牽引力となり、緑の多いゆったりとした展示スペース内に展示された、各若手グループのフレッシュな展示作品に多くの関心が寄せられた。

3つ目は、デザインへの意識の変換。

エコロジーや環境問題に対する意識の定着はもとより、デザインを享受できる人口の割合が世界人口のうちの10%である事実や、デザインが自己を顕示するものではなく、あくまでも工業と商業の担い手として生活を豊かにする手段であるといったデザイナーの意識の定着が見られる。

デンマークのデザイナー達は、“Sustainable Design with a Long Touch”-「長く使えるデザイン」をテーマに、地場産業の木工技術にコンテンポラリーな用途と形態を加えた食器や家具、デンマークで一般的に使用されている三輪自転車をリニューアルデザインした作品など、伝統とデザインを融合させた展示を行なった。

躍動するサローネサテリテ

今年のサテリテでは企業とデザイナーの接点を深める目的で、当年の併設展示分野であるキッチンとバス・サニタリーをテーマに、サテリテへ参加したデザイナーたちへ新しいデザインのプロトタイプを募った。数多くの応募の中から、シリコン製の万能食器“Seasons”-Nao Tamura (アメリカ)制作、現在開発中の圧電気最新技術を応用した省エネシャワーシステム“Piezo Shower”-Sebastian Jansson(フィンランド)、Fernanda Pizà(メキシコ)、Victor Stelmasuk(ブラジル)、Natalie Weinmann(ドイツ)による共同制作、“身体障害者のためのマルチまな板”-Gabriele Meldaiyte(リトアニア)制作、の3点が優秀作品に選ばれた。いづれのプロトタイプも完成度が高く、斬新なコンセプトと日常の生活に大きく貢献されうる点が高く評価された。



Hidden Heroesに展示された、一連のキャラクターグッズ。



Koncernによるボヘミアンガラスを用いた、モジュール式のパーテーション。



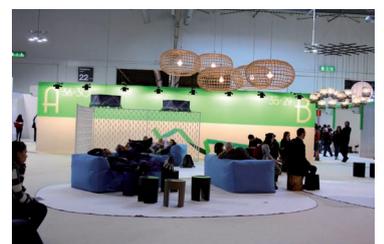
デザインミュージアム(ランブラーテ地区)には近年の作品群が一堂に展示。



デンマークで昔から愛用されている三輪車のリデザイン。



優秀作品に選ばれたシリコン製の万能食器“Seasons”(Nao Tamura アメリカ)



Darcy Clarke(オーストラリア)による太平洋をテーマにしたインスタレーション

会場内には、過去にサテリテへ参加したデザイナーの中から4名と1グループが選出され、五大陸—アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、太平洋—をテーマとしたインスタレーションが設置された。アジアの代表デザイナーグループとして、TONERICO:INC.は49脚の”スツール”(アジア49カ国を表現)と無数につり下げられた”暖簾”を用いて、アジアの包み込むような柔らかな空気を表現した。

200近く設置されたブース内では、ファニチャー、照明器具、インテリアアクセサリなどのフレッシュなデザインが趣向を凝らして展示されていたが、今年特に新しいカテゴリーとして目を引きつけたのは、ウォールデコレーションである。デザイングループIVÁNKA(ハンガリー)は、数種類のウォールデコレーションを展示したが、中でも不定形の陶器製タイルの目地に苔を挿入することで、壁に生命を吹き込んだ提案が印象に残った。また、PUDELSKERN(オーストリア)は、セラミック製だが柔らかな印象の角付きモジュールパネルを組み合わせる事で、壁かけフックの機能を持たせたデザインを提案。LOÏC DETRY(ベルギー)は、アラビア模様をレーザーカットしたモジュールパネルを壁面に密着させ、カットされた穴の部分から壁の色が浮き出すことにより、レース編みのような繊細な印象を与えるパネルを提案するなど、各国から同時に多様な提案がなされた。

サテリテ全体の印象としては、1. デザイン領域外で使用されている、あるいは開発中の高度な技術と素材をもプロトタイプ制作に反映し、各々の展示作品の完成度が非常に高い 2. カラーリングはヴィヴィッドなものが主流 3. デザインコンセプトにはエコロジーへの意識がベースに置かれ、グローバルな視野からデザインの用途とマテリアルが選択されている、などが挙げられる。



目地にはめ込まれた苔により壁に生命が吹き込まれるIvankaの作品。



植物のように自在に繁殖させることのできるPudedskernの壁掛けモジュールパネル



陶器素材板にアラビア模様をカットしたLoic Detryのウォールデコレーション。

Il Salone Internazionale del Bagno 2010

イタリアのバスルームは一般的な日本の状況と異なり、トイレとバスが同じ空間に配置されており、インテリア設計の際には最小のスペースにいかにか全ての機能を無駄なく配置するかが大きな課題であった。が、ここ数年ホームサウナやスパの浸透により、バスルームは機能を備えただけのスペースではなく、リビングルームやベッドルームの延長としてのくつろぎの場、という認識に変化しつつある。現実には、ゆったりとしたこの”バスサロン”を享受できるのはまだまだ一握りのクラスに限られるのだが、庶民の夢の対象として位置付けられている。

今年のIl Salone Internazionale del Bagnoではこの流れを反映し、近未来に向けた最新のサニタリー関連製品が一堂に展示された。中でもバスタブはバスルームの中心となるエレメントであり、パフォーマンス的な製品から、実用性を伴う機能とデザイン性の高い製品まで幅広く紹介された。Dornbracht社は、水を踊らせる”Trasforming Water System”により、体の洗浄だけでなく精神の浄めを提案。成形の自由な自然素材Cristalplantを用いて、Agape社は”Novecento”、Kos社は”Morphing”、それぞれクラシカルなラインのバスタブを発表。Rapsel社はMatteo Thunを起用し、サニタリーや蛇口を見せないコンセプトデザインを発表。蛇口については、水の消費を抑えつつ水量を増加させるAxor社のEcosmartシステムが話題となった。



Carnevale Studio(アメリカ)は、ヴィヴィッドな色彩の伸縮性のある紐を巧みに使用し、座り心地の良いスツールを提案した。



水のパフォーマンスを見せるDornbracht社のバスシステム。



デザイナーとのコラボレーションを重視するFlaminia社の新作。

FTKーテクノロジー・フォー・ザ・キッチン

今年で4回目を迎えるFTKは隔年開催されるEurocucinaの一部として、キッチン関連企業26社が参加し7千平米に及ぶ展示空間内で、キッチン家電製品(はめ込み式)と換気フードの最先端の技術とデザインコンセプトを披露するセッションである。製品化を目的にしたプロジェクトのみならず、未来のキッチンを描く場としてプロトタイプも数多く発表される。

今回は、社交の場としてのキッチン、目に心地よく快適で手入れの楽なキッチンを模索した展示が主流を成した。Whirlpool Europe社は世界独占権を持つ画期的な素材、イクセリウム・ステンレス(ナノテクノロジーを採用)を起用したガスコンロを発表。化学素材やショックに非常に強く耐久性があり、またステンレス独特の輝きを長年保つことが可能である。

エコロジーの視点からは、Elica社が消費電力が少なく静かでデザイン性に優れた次代の換気フードを提案、またAEG Electrolux社は、出力音38デシベルという人のささやき声ほど静かな食洗機を発表した。Miele社は、ガスコンロと換気フードをCon@activityシステムにより連動させ、調理される状態に応じて自動的に換気がなされるICEシリーズを発表し話題を呼んだ。

インテリアデザインとファッションの融合

近年、フォーリサローネへのファッション企業からの参加が多く見られる。今年にはサローネ期間中、モンテナポレオーネ通り近辺のブティックがフォーリサローネに足並みを揃え、営業時間を夜の9時まで延長し存在をアピールした。例えば、アルマーニがこの通りにある元ブティックをインテリアショップにリニューアルするなど、ファッションデザイナーのインテリアデザインに対する興味は非常に高まってきている。

こうした背景を踏まえ、ミラノ市ではサローネの主催者COSMIT、トルトーナ地区のオーガナイザーたちを交え、現在年に1度に集中するサローネのイベントを、ファッションショーの期間中にも開催する計画を進めている。ファッションショーは業界関係者のみが関与するイベントだが、ミラノ市街と一般市民とを巻き込むフォーリサローネを絡める事で、年間を通して”デザインの街ミラノ”を世界にアピールする方針だ。さっそく、今年の9月22日から28日までのファッションショー開催期間を目標に検討中である。

ミラノ市の年間総生産の50%が、デザインとファッションで補われている事実を考えると、2つの分野を融合させることで、さらなる相乗効果を生む可能性は大きい。



Whirlpool社から発表されたナノテクノロジー起用のステンレス製コンロ。



Elica社設計の省電力で静かなスタイリッシュな換気フード。



Antares社はタッチセンサーによるキッチン家具、縦型フードなどを提案。



S.Andrea通りにオープンしたインテリアショップArmani Casaの内装。



ボッテガヴェネタの本社で行なわれた、日本の伝統工芸のエキシビジョン。

執筆者 略歴

池田美雪 インテリアデザイナー

武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒

1994年よりミラノ在住

主に個人邸の改築、パブリックスペースの設計に携わる

設計外に携わった主なプロジェクトとして

Kinder Sorpresaのおまけの商品企画(Ferrero社)

Kinder Buenoのパッケージデザイン(Ferrero社)

”do it jubunde”展(無印良品、ニコレッタ・ブランツィとのコラボレーション)を企画ならび実現

”Soundesign”展(Marangoniファッションスクール主催)にて弦楽器”Caravantar”を発表

”Bellezza è Pace”展(Confraternita dei Sufi Jerrahi主催)にてグラフィックアートを発表

今年は、日常の素材を使いリプロダクト可能な遊びをテーマにしたエキシビジョン”Festa dei giochi di strada del mondo”展(dedep-madeAThome主催)に、ワイングラス”fa-sol-la”をデザイン

現在クリエイティブ・コンサルティング会社MimiLab (www.mimilab.com)を共同経営するかたわら、デザイン・アートに関するコーディネイト、翻訳と通訳、ならびにジャーナリストClaudia Baranaとのコラボレーションで雑誌への執筆に携わっている